

全校朝会のことは(令和2年9月7日)

皆さんおはようございます。

いつ見ても皆さんの集合状況は素晴らしいですね。先週は、ラグビー教室や認知症サポーター養成講座で多くの外部の方が来校されました。共通してお話を伺うことができたのが、皆さんの真剣な態度です。ぜひこれからも、真剣に話を聞くということを実践していきましょう。

さて、去年の今頃は何かあったか覚えていますか？

そうですね。ラグビーワールドカップで盛り上がっていました。

1年前の9月6日には、優勝チームである「南アフリカ」と日本チームの前哨戦が行われました。2015年の逆転がまた起こるのでは？と期待して観戦しましたが、南アフリカの強さに圧倒されたことを覚えています。このときは日本が「ワンチーム」となって勝ち進み、予選を1位で勝ちぬぎ決勝トーナメントに進出するとは思っていませんでした。残念ながら決勝トーナメント1回戦でも、南アフリカと対戦し、善戦はしたものの、その強さの前に涙をのみました。

2,3年生の皆さんは9月24日に、1年生の皆さんは10月9日にそれぞれ熊谷ラグビー場でワールドカップを観戦したと思います。生で見るそれぞれの国の代表選手のプレーの迫りに、皆さんも感動したことでしょう。

話は変わりますが、この絵を見たことがありますか。これは、「ゴッホのひまわり」と呼ばれている作品です。実は夏休みに1度だけ都内に出かけ、この作品を見てきました。そのほかにも、フェルメールやターナー、セザンヌ、モネなど、有名な画家の作品を見てきました。コロナの影響で、人数制限をしておの入場でしたので、作品のそばまで行って作品の素晴らしさを堪能することができました。作品展の最後に展示されていたのが、先ほど紹介した「ひまわり」という作品でした。実物を近くで見ると、荒々しい筆のタッチや細かな描写など、本物ならではの作者の息づかいを見ることができました。

ラグビーワールドカップや美術展を見て感じるのは、本物に触れることの素晴らしさです。皆さんは、ネットやテレビで見たものを鵜呑みにしてしまうことはありませんか。今問題になっているのは、新型コロナウイルス感染症にかかった人への心ない言葉や行動です。誰もかかりたくて感染症の陽性者になったわけではありません。明日は自分になるかもしれないのです。そのような状況の中で、ネットによる嫌がらせや電話による誹謗中傷があるとされています。

これらは実際に見たことでもないのに「多分こうなったんだろう。」とか「きっとそうに違いない。」という予測でやっていることが多いのです。皆さんの周りに陽性者が出た場合は、見てもいないのに「近づかない方がいいよ！」と言う人がいるかもしれません。陰性になって登校してきた場合は、感染はありません。その人に寄り添い、しっかりと受け止めてほしいと思います。絶対にその人やその家族を避けたり、いじめたりすることがないようにして下さい。

皆さんの目を見たことが真実なので、よく見て正しい判断をしていきましょう。

もし皆さんが感染した場合は、「4つのch」を実践していきましょう。「pinch」を「chance」に変えることができるといいですね。でも、感染症対策だけはこれからも続けていきましょう。このような時代だからこそ、皆で力を合わせて生活していきましょう。